

Slovenia Monthly February 2019

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年3月28日



～2月の主なポイント～

- 内政：** 国民議会，2019年補正予算の審議開始。
レーベン環境・空間計画大臣が辞任。
- 外政：** スロベニア，グアイド国会議長による暫定大統領就任の承認を閣議決定。
政府，北マケドニアのNATO加盟を承認。
- 経済：** 速報値：2018年GDP成長率は4.5%。
- 社会・文化：** 古典的カルスト地形ユネスコへ推薦。

政治

【内政】

●国民議会，2019年補正予算の審議開始【4日～5日】

4日，スロベニア財務省は，2019年補正予算案に関し，欧州委員会より追加説明を要求されていたのに対して，財政規律は重要なガイドラインであり遵守する姿勢を改めて示し，財政の安定性，経済成長及び社会保障のバランスを考慮して予算策定しているとして，2019年は，約束した社会保障を拡大する一方で，投資及び政府経費は前年と同様のレベルに留めると説明した。欧州委は，2019年の政府歳出の前年比4.5%増加は，推奨される増加幅の上限3.1%を上回るものである等として懸念を示していた。

5日，国民議会は，2019年補正予算案の審議を開始。同補正予算では，すでに採択された2019年予算に対して，歳入は約6億ユーロ（6.2%増加），歳出は約4.6億ユーロ（4.8%増加）を上乗せするもの。内容は，主に2018年中に交渉された公務員給与の増加及び地方自治体への補助金の増加分等。

●ブラトウシェク大臣，SAB党首に再選【16日】

アレンカ・ブラトウシェク同盟（SAB）の党大会が開催され，ブラトウシェク・インフラ大臣は，4年の任期で同党党首として再選した。同党首は，経済危機が最も深刻であった時期（2013年3月～14年9月）に首相を務めたことを想起し，SABは年金生活者の財政状況及び医療制度の改善を優先課題として扱ってい

くの方針を示した。また，同党大会において，国民議会議員のイストク・プリッチ開発・戦略事業・結束担当大臣を含む4名の副党首を選出した。

●新文化大臣候補の推薦【20日】

連立与党ジュニアパートナーの社会民主党（SD）は，1月に同党推薦のプレシチェク氏が文化大臣を辞任したことを受け，新文化大臣候補としてトルボウリエ市文化センター「Trbovlje Worker's Home」館長のポズニッチ氏（Zoran Poznič）の推薦を発表した。同氏は，リュブリャナ芸術デザイン・アカデミーを卒業，2008年より現職。ジダン党首とともに記者会見に臨んだポズニッチ氏は，文化省における就労環境改善に関し，「同省において職員が皆同じ目標に向かって業務に取り組めるよう対策を講じたい」と述べた。シャレツ首相は，原則としてSDの推薦を尊重するとしており，また，文化省職員の労働組合（GLOSA）も同氏のリーダーシップを評価する旨の反応を示している。

●レーベン環境相の辞任【27日】

シャレツ首相が，レーベン環境・空間計画大臣の辞表を受理した。昨年，コペル～ディヴァチャ間鉄道路線建設計画の広報用設計模型の発注を巡り，入札プロセスにおいてより高額な価格を提示した業者を選定したことが発覚。警察によれば，その捜査の中で，本件には，同模型を発注したインフラ庁のみならず，同庁を所管するインフラ省の広報部が落札業者の選定に不正に関与した疑惑が持たれており，また当時のレーベン・インフラ副大臣（現在の環境・空間計画

大臣)の関与についても捜査が継続中である。レーベン大臣は潔白を主張しつつも「環境・空間計画大臣として推進してきた環境政策の継続は重要であり、同省の活動にまで疑惑が及ぶことを避けるためにも、辞職することを決断した」として辞意を表明した。

なお、28日、ブラトゥシェク・インフラ相は、トポルコインフラ庁長官を解任。コペル港の鉄道模型にかかる入札での不正疑惑を受けてのもの。シャレツ首相はレーベン環境相の辞任を受け入れた際、トポルコインフラ庁長官の辞任を要求していた。



(レーベン大臣 (photo: Tamino Petelinšek/STA))

【外政】

●ツェラル外相、米国によるINF義務履行の停止は「残念」【1日】

ブカレストで開催されたEU非公式外相会合に出席したツェラル外相は、米国が中距離核戦力(INF)全廃条約上の義務履行を停止する意向を表明したことは残念であると述べ、「我々は、6ヶ月以内にロシアが適切な対応を行うことを期待している」と述べた。また、同外相は、「仮に、同条約が廃棄された場合にも、中距離・長距離弾道ミサイルの管理を継続するために同条約の後継となる枠組みを確保することが重要である」と述べた。

●ツェラル外相、対ISIL連合外相会合に出席【6日】

ツェラル外相は、ワシントンにおいて、ポンペオ国務長官が主催した対ISIL連合外相会合に参加した。同会合では、イラク及びシリアにおけるISILの掃討作戦の今後につき議論が行われ、如何にしてISILが再度モメンタムを得ることがないようにしていくかに焦点が当てられた。なお、スロベニアは対ISIL連合79ヶ国の一つであり、軍事面では2018年より、イラクのクルディスタン地域のエルビルにおいてクルド人部隊に対する軍事訓練を行っている。

●政府、北マケドニアのNATO加盟を承認【12日】

国民議会は、マケドニアのNATO加盟に関する議定書の批准にかかる決議を賛成72票、反対12票で採択し、スロベニアはギリシャに続き、2番目に同議

定書を批准した国となった。7日、政府は、同法案を閣議決定した際、「西バルカンはスロベニア、EU及びNATOの安全にとり戦略的に重要な地域であり、EU及びNATOの拡大は、同地域の発展及び安定の保障となる鍵の一つである」旨の評価を述べていた。

●マケドニア国会議長のスロベニア訪問【11～12日】

11日、ジダン国民議会議長は、スロベニアを訪問したジャフェリ・マケドニア国会議長と会談し、同国のNATO加盟に向けた努力を賞賛した。また、ジャフェリ議長は、パホル大統領、シャレツ首相及びツェラル外相とも会談した。12日、ジャフェリ国会議長は、スロベニア国民議会における決議採択後に演説を行い、スロベニアによるマケドニアのNATO加盟に関する議定書の批准を歓迎した。

●スロベニア、グアイド国会議長による暫定大統領就任の承認を閣議決定【14日～15日】

14日、スロベニア政府は、ベネズエラのグアイド国会議長による暫定大統領就任の承認を閣議決定した。ツェラル外相は、スロベニアが同議長を暫定大統領として承認した唯一の理由は、自由で、民主的且つ合法的な選挙を可及的速やかに実施することを要請するためであると述べた。ツェラル外相は、4日に同議長の承認を提案していたが、連立与党内の意見の相違及び協力関係にある「左派」が、承認は協力関係に影響を与えたとの警告により決定が遅延した。「左派」は引き続き、本件承認に反対している。

なお、15日、駐スロベニア・ベネズエラ大使(ウィーン常駐)が、スロベニア政府によるグアイド国会議長の承認をスロベニアに対する対抗措置への道を開いた過ちであるとして非難したことに対し、18日、シャレツ首相は、マドゥロ大統領率いる政権に対し、駐ブラジル・スロベニア大使が同国を兼轄することを要請してきたが、2年間に亘り何ら返事はなかった、また、EUの殆どの国がグアイド国会議長を暫定大統領として承認していると述べ、現在のベネズエラ情勢は、悪循環に陥っているとして懸念を表明した。

●スロベニア、タヤーニ欧州議会議長の発言に抗議【11日～14日】

11日、第二次大戦後のユーゴスラビアのパルチザン部隊により殺害されたイタリア系住民の追悼式典においてタヤーニ欧州議会議長が、「無辜の一般市民がイタリア系という理由のみで、赤い星を付けた兵士により惨殺された」と非難し、最後に「Long Live Trieste, Long Live Italian Istra, Long Live Italian Dalmatia」と締めくくったことに対し、パホル大統領、シャレツ首相、ジダン国民議会議長らは、同議長及び発言に同調したサルビーニ内相を非難し、説明を要求した。

パホル大統領はマッタレツァ伊大統領への公開書簡の中で、「本件は、イタリア政府高官による、あたかも民族浄化が行われたことを印象付けようとする受け入れ難い発言である」として非難。シャレツ首相は、ツイッター上において、「これは前例のない歴史修正主義である」と非難した。

13日、タヤーニ議長が属するEPPのスロベニア人及びクロアチア人所属議員らが、明確な謝罪と、発言の撤回を引き続き要求したことに對し、同議長は、両国出身の欧州議員との会談において、「自分の発言が、領有権を主張しているように誤解された」として謝罪。続いて、14日、同議長は、ツェラル外相宛書簡の中で「自分は、貴外相及びスロベニア国民に對し、自分の発言によりスロベニア国民の心を傷付けたことにつき深く謝罪したい」と述べた。これに對し、ツェラル外相は、同議長による謝罪を受け入れ、本件は解決したとの立場を表明。マタレツァ伊大統領は、パホル大統領からの書簡に返信し、同大統領の懸念を共有すると述べた。

●パホル大統領及びツェラル外相、ミュンヘン安全保障会議に出席【15日～16日】

ミュンヘン安全保障会議に出席したパホル大統領は、記者インタビューにおいて、「ヨーロッパ人が安全を求めているのであれば、より団結していく必要がある。民族主義への回帰は、誰も恩恵を受けない古い地政学的思想への道に過ぎず、短期的な解決策としかならない」と述べた。また、同大統領は、「世界の安全保障状況が悪化する中、多国間主義を促進する勢力と、米国のように抜本的な変革が必要と考える勢力との間に考え方の相違が生じてきている」とコメントした。

16日、ミュンヘン安全保障会議の「新たな多国間秩序」に関するパネルディスカッションに出席したツェラル外相は、「スロベニアは、多国間主義及び同主義と安定の基礎の一つである国際法遵守にコミットしている」と発言した。また、同外相は、気候変動、飢餓、サイバーセキュリティ、大規模な移民流入等の地球規模課題は、協力のみにより解決が可能であると述べた。



(photo: dpa/STA)

●パホル大統領、モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表と会談【20日】

パホル大統領は、ブリュッセルにおいてモゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表と会談し、両者はコソボ問題の解決のためには民族の枠を超えた Out of the box の解決策が必要であるとの認識で一致した。また、両者はベネズエラ情勢についても意見交換を行い、パホル大統領は、武力の行使による変革は受け入れられないとの立場を強調した。両者は、早期選挙までの期間のグアイド国会議長の暫定大統領承認は、新大統領擁立に向けた平和的な道を開くものとの認識で一致した。

●ピヴェツ農林食糧相のフランス訪問【23日】

ピヴェツ農林食糧相はフランスを訪問し、農村部における若者問題に関する閣僚会合及び国際農業見本市「SIA」の開会式典に出席すると共に、ゲマール仏農相と会談を行った。両者は、両国の友好的な関係を賞賛すると共に、食品の原産地に関するラベル表記のより一層の透明化に向けた効率的なアプローチの導入及びEUの共通農業政策の改革に向けた準備等について意見交換を行った。

●ツェラル外相、ハント英外相の「スロベニアはソ連の属国」発言を憂慮【24日】

ツェラル外相は、21日にスロベニアを訪問したハント英外相が、記者会見においてスロベニアを「ソ連の属国」と表現したことに憂慮の念を表明した。ツェラル外相は、記者会見中にハント外相の発言を止めることはしなかったが、次回、同外相と会う時に、スロベニアの歴史につき然るべく説明するとの方針を述べた。

●シャレツ首相、第一回EU・アラブ連盟首脳会合に出席【25日】

エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催された第1回EU・アラブ連盟首脳会合に出席したシャレツ首相は、「世界規模課題への対処における欧州・アラブ諸国のパートナーシップ強化」についてのパネルディスカッションにおいてスピーチを行った。同首相は、文化、経済、政治分野における欧州とアラブ諸国との間の深い繋がりを強調すると共に、スロベニアはアラブ連盟との間で、人道・開発等の様々な分野において成功裡に協力を行ってきている旨述べた。

●ヴェスタガー欧州委員のスロベニア訪問【25日】

ヴェスタガー欧州委員（競争政策担当）は、スロベニアを訪問し、国営銀行の民営化を中心にベルトンツェリ財務大臣と協議した。ヴェスタガー委員は、2018年、政府が所有する新リュブリャナ銀行(NLB)の株式65%をIPOにて売却し、民営化を開始したことを歓迎

迎し、また、2013年の欧州委との取決めに基づいて、今年民営化開始が予定されているアバンカ銀行に関しても、適切に売却されることを期待すると述べた。

●パホル大統領の訪英【2月27日～3月1日】

2月27日から3月1日までの3日間、パホル大統領は、英国を訪問した。初日は、エドワード王子及びハント外務大臣と会談し、パホル大統領及びハント外務大臣は、良好な二国間関係をともに評価し、また、パホル大統領は、スロベニアが BREXIT 後も二国間関係の更なる強化に真に関心を寄せている旨述べた。更に、ハント大臣が先般のスロベニア訪問時にスロベニアを「ソ連の属国」と発言したことに関し、パホル大統領は、ツイッター上で、会談の冒頭のハント大臣による説明を謝罪と受けとめたと述べた。

28日、パホル大統領は、バッキンガム宮殿において、エリザベス二世女王に迎えられ、大統領府によれば、両元首は当初の予定より長時間にわたり友好的な雰囲気の中で対談した。また、同大統領は、ウェストミンスター寺院前で戦没者の慰霊碑に献花したほか、英国議会議員らと会い、BREXITに関する意見交換を行った。同意見交換の中で、同大統領は、合意なきEU離脱は、英国に在住するとみられる約5,000人のスロベニア人の生活にも影響を及ぼしかねないとして、英国及びスロベニアを含むEU諸国の利益となる解決策が見いだせるよう期待すると述べた。また、1日、同大統領は、ロンドン証券取引所及びロンドン市長らと世界経済及び金融市場に関する意見交換を行った。



(photo:大統領府)

【2019年欧州議会選挙関連】

●欧州議会議員選挙、5月26日に実施【13日】

パホル大統領は、スロベニアにおける欧州議会議員選挙を5月26日(日)に実施することを決定した。候補者は2月25日から登録が可能であり、選挙キャンペーンは投票日から1ヶ月前に開始される。なお、同選挙において、欧州自由民主連盟(ALDE)に加盟

する現代中央党(SMC)及びアレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)は、合同リストで選挙に臨むとの方針を発表したが、同じくALDEに加盟するマリヤン・シヤレツ・リスト(LMS)は単独で選挙戦に臨むことを決定。

●第一回選挙結果予測の発表【18日】

欧州議会選挙に関し、各国の世論調査を下に作成された選挙結果予測が発表された。今次選挙において、欧州議会の総議席数が751議席から705議席に減少する中、スロベニアは8議席を維持。その中で、民主党(SDS, EPP(欧州人民党))及びマリヤン・シヤレツ・リスト党(LMS, ALDE(欧州自由民主同盟))がそれぞれ3議席、社会民主党(SD, S&D(社会民主進歩同盟))及び「左派」(The Left, EUL/NGL(欧州統一左派・北方緑の左派同盟))がそれぞれ一議席獲得するものと予測される。

経済

【経済指標・統計】

●2018年の貿易統計発表【7日】

スロベニア統計局は、2018年の貿易統計を発表。スロベニアの対外輸出は、前年比9.2%増加の309億ユーロ、輸入は11%増加の306億ユーロを記録した。約3億ユーロの貿易黒字は、EU域外との貿易によるもの。貿易相手国は、一位がドイツ、二位がイタリア。そのほかクロアチア、オーストリア、フランスと続き、これら5か国で全体の半分の貿易額を占めた。

●2018年工業生産高、前年比4.6%増加【11日】

スロベニア統計局は、好調な製造業に支えられ2018年の工業生産高が前年比4.6%増加した旨発表した。他方、同増加率は、2017年の増加率8.0%に対して3.4%ポイント低く、成長は減速している。分野別では、製造業が5%増加する一方で、発電分野の増加は1.2%、鉱工業は1.6%の減少であった。なお、製造業の売上高は4.6%増加した。

●IMF、2019年経済成長率を3.4%と予測【18日】

IMFはスロベニアの長期経済予測を発表した。同予測によれば、保護貿易主義の台頭、欧州における予測不可能な経済環境、世界需要が期待値より減少している状況等を背景に、スロベニア経済成長率を本年は3.4%、2020年には2.8%に減速するものとしている。また、IMFは、スロベニアが過去6年間、経済が成長しつづけていると評価する一方で、急速な高齢化、生産性上昇率の鈍化、労働力不足等がスロベニアの課題であるとして、今後、構造改革を加速化することが肝要であるとの見解を改めて示した。

「Society 5.0」フォーラムの開催

2月6日、当地において、スロベニア日本ビジネス協会(SJBC)の主催、国民評議会(上院)、経済開発・技術省、教育・科学・スポーツ省、外務省、インフラ省及び当館の協力により「スロベニアにおける Society5.0」フォーラムが開催されました。



同フォーラムでは、如何にして先端技術や技術革新を社会全体の利益のために活用していくかにつき議論が行われ、政府を含めたスロベニア側関係者より日本が提唱する Society5.0 のスロベニアにおける導入に支持が表明されました。スロベニア側よりコウシュツア上院議長、ピカロ副首相兼教育・科学・スポーツ大臣、ポチヴァルシエク経済開発・技術大臣、プリクル首相府副大臣、ボジッチ外務副大臣等が出席しスピーチを行いました。日本側からは、吉田大使、市川芳明・多摩大学客員教授(ISO TC268 SC1 議長、日立製作所主管技師長)等が基調講演を行いました。その後、パネル・ディスカッション、ネットワーキング・レセプションを通して、活発な議論が展開されました。

吉田大使は、基調講演において、安倍総理によって打ち出された日本の経済活性化のためのアベノミクスは、その後、その



時々の社会経済課題を解決するためのものへと発展し、その中で、日本における高齢化社会、そして、持続可能な開発といった地球規模課題に取り組むべく、打ち出された新しいモデルが Society5.0 と紹介。また、大使は、①「狩猟社会」②「農耕社会」③「工業社会」④「情報社会」に続く、5番目の新しい社会は、④「情報社会」で得られた様々な情報とイノベーションを駆使して、諸課題を克服し、一人一人の生活をより豊かにする社会を目指すものであり、また、高齢化といった日本と共通の課題に直面するスロベニアにおいて、本コンセプトが歓迎されることは喜ばしいと述べました。特に、スロベニアは、そのハイテク指向性、国のサイズ等、Society5.0 を先頭に立って実現する好条件を有していることに加え、発効した日 EU 経済連携

協定が今後の日スロベニア両国間の Society5.0 分野での関係発展を促進するであろうこと、既にNEDOスマートコミュニティ実証事業等、両国の協力の素晴らしい実例があることを指摘。最後に、大使より、日本では、今後2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博が開催され、多くの外国の方々をお迎えすることとなるが、こういった機会を捉えて、日本とスロベニアが、Society5.0 を通じて、どのような社会の創造が可能か示せるよう期待する旨述べました。



ビジネス事例の紹介では、NEDO、日立製作所及びELES社によるNEDOスマートコミュニティ実証事業、リュブリャナ市最大の商業施設BTCによる自動運転や5G通信

等の新技術の実証を含む Society5.0 の導入に向けた計画、トヨタ・アドリアによるパラリンピックへの支援を含めたモビリティ分野における貢献、運転補助装置製造メーカー「BDFハンドル」社との協力、ソチャ・リハビリセンターへのトヨタ製リハビリロボット導入及びBTCにおけるIoTを活用したカーシェアリング導入に向けた動き等、LIT-TransitによるNECとの業務提携によるIoTや電子ペーパー技術を導入した次世代の公共交通機関の運行管理システムの開発、加速器制御システムメーカーのCosylab社によるスロベニア陽子線治療センター建設計画、日立ヨーロッパ粒子線事業部による同社の粒子線治療分野における先端技術開発、安川電機及びRoboticsX社によるR&Dセンターの事業計画及び Society5.0 の実現に向けた貢献につきプレゼンが行われました。



「Society 5.0」とは:

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステム、イノベーション等で創出される新たな価値により、個々の多様なニーズ、潜在的なニーズに対して、きめ細かな対応が可能となる社会。また、こういった対応により、地域、年齢、性別、言語等による格差がなくなり、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の新たな社会(Society)を目指す日本政府が提唱するコンセプトです。2025年大阪・関西万博においても、Society5.0 の実現を目指しています。

(出典: https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
<http://www.btc.si/en/press-releases/2019/02/society-5-0-slovenias-opportunity-for-a-technological-breakthrough/>)



●余暇を過ごす経済力【19日】

スロベニアの4世帯中3世帯は、1週間の休暇を自宅から離れた場所で過ごせる経済力を有していると統計局が報告した。他方、こういった経済力には地域差が存在し、北東部ポムリエ地方では、1週間の休暇を過ごす費用をまかなえる世帯は60%、中部では80%となっている。なお、スロベニアの小中学校生徒数は260,000人、毎年2月の学校の冬休みは観光業を後押しする期間となっている。

●速報値:2018年GDP成長率は4.5%【28日】

統計局は、2018年GDP成長率の速報値を発表、前年(2017年)比4.5%のプラス成長となった。名目GDP成長率は前年比6.9%のプラス成長。なお、確定値は本年8月末に発表される予定。統計局によると、GDP成長には輸出の伸びが、昨年の10.7%よりは鈍化したものの7.2%と好調であり、また国内消費も伸びていることが大きな要因である。

【企業・産業の動向】

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、EIB リストに掲載【15日】

コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業のPPP方式での実施主体となる特定目的会社「2TDK」社は、欧州投資銀行(EIB)が融資する予定の案件リストに本件事業を掲載した旨を発表した。試算によれば、本件事業の総額は約10億ユーロとされており、EIBによる融資額は2.5億ユーロと想定されている。EIBは、今後、本件事業につき最終評価を実施し、4月の理事会において承認する見通しとなっている。

●スパリゾート、テルマナ・ラシュコ好景気【18日】

スロベニア中央東部に位置するラシュコのスパリゾートを運営するテルマナ・ラシュコは、昨年の売上が前年比6%増の2260万ユーロとなり、利益は42%増の170万ユーロとなったと発表した。同社プレスリリースによると、当該リゾートでの宿泊数は延べ187,200泊で、スロベニア人の宿泊数は前年比3%増加し、外国人の宿泊数は6%増加した。

●マグナ・シュタイヤ社の環境許可を巡る動向【8日～21日】

8日、環境・空間計画省は、マグナ・シュタイヤ社がマリボル郊外で建設中の自動車塗装工場に関して、水質保護等に関する法律に違反するとして同建設の環境許可証発行の差し止めを求めている環境NGO「ROVO」の請求を却下した。

13日、本件に関して行政裁判所に控訴する方針を明らかにしていたNGO「ROVO」は、控訴を断念する方針を決定。ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、方針の転換は、同NGOと経済開発・技術省との協議

の結果、同省が、マグナ・シュタイヤ社の投資に関する特別法の修正案を提出することに合意したためであると述べ、修正案を20日の閣議において審議する旨を発表した。

14日、マグナ・シュタイヤ社は、「ROVO」による控訴断念を歓迎。他方、同NGOとスロベニア政府との合意の結果、塗装工場の操業が遅延することから、予定されていた注文の一部はオーストリアのグラーツ工場において請け負うこととなるとの方針を発表した。同社によれば、環境基準に適合した塗装工場は3週間程度で完成する。

21日、政府は、マグナ・シュタイヤ社の投資に関する特別法を修正する方針を中止した。その理由として、政府は、マグナ・シュタイヤ社と同様の手続きを経て環境許可を取得している企業が存在し、同社の投資に関する法案のみを修正することは適切ではないと判断したためとしている。また、環境NGO「ROVO」は、今般、環境・空間計画省が、マグナ・シュタイヤ社による投資計画の影響を含め、水質汚染に関する法律の全面的な見直しを約束したことから、本件に関する控訴は見送ることを決定したと述べている。

●イストリア地域のエキストラバージン・オリーブ・オイルのEU原産地呼称保護制度(PDO)が承認【27日】

イストリア地域のエキストラバージン・オリーブ・オイルにつき、「Istria olive oil」の名前でスロベニアとクロアチアの共同でのEUの原産地呼称保護制度(PDO: Protected Designation of Origin)が承認された。2017年5月、同地域に存在する両国のオリーブオイル生産企業は、共同のPDOを取得することがよりグローバルな広報効果に寄与し、ひいては総生産量が増加することに繋がるとして合意していた。両国の共同においてPDO保護される産品は、2015年のイストリア・プロシュートに続き、2品目。なお、2018年、イストリア地域の養蜂家は、「Istria Honey」に関し同様の共同申請を提出している。(参考:2016年のオリーブオイル生産高:全世界で320万トン、クロアチア5500トン、スロベニア500トン)



(photo:スロベニア政府)

スロベニアに迫る！ Society5.0 に資するスロベニア企業 「Mikropis」



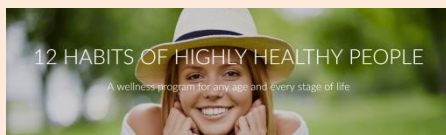
3月1日、吉田大使は、株式会社東芝や株式会社寺岡精工と連携してPOSシステム等を開発しており、かつ、従業員の健康促進のための企業向け携帯アプリ等を開発しているスロベニア企業「Mikropis」社を訪問し、Society5.0 や人々の健康に資する技術革新などに関して、同企業関係者と意見交換を行いました。

スロベニア企業「Mikropis」社の主要事業のひとつは、POSシステムの開発です。2018年には、韓国企業「イーマート」の大型スーパーマーケットにおいて、初めてのセルフサービスのレジを導入しました。本事業では、株式会社東芝との連携により、韓国を初めとするアジア市場への進出が実現しました。

また、同社は、株式会社寺岡精工の対面販売用の最新機器を導入したソリューションを開発。切れ目のないラベリング等の最新技術を取り入れ、また、店員と顧客との会話を楽しくするようなデザインをもとに、人に優しく、スムーズな対面販売を可能にします。

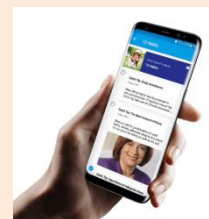
さらに、同社が現在注力している事業の一つに、米国の著名な総合病院「メイヨー・クリニック」の科学的根拠に基づいた健康促進プログラムを取り入れたPC/携帯プラットフォームの開発があります。

同事業のきっかけは、1990年代も終わる頃、(コンピューターが年を正常に認識できなくなる)2000年問題に対応していた同社の社員が、働き過ぎで体調を崩したり、燃え尽き症候群に陥ったりした経験でした。その後、これらの優秀な社員のケアを行いまし



たが、今後は予防に務めることが会社としての責任であり、また経済的にも効率的であると判断しました。

同プログラムでは、各企業のニーズに合わせて、PC/携帯のアプリケーション「24alife」を導入し、従業員に参加を促します。各従業員は、個々にオンラインの質問に回答すると、それぞれに合ったウェルネス・プログラムが作られます。従業員は、アプリを通じて、定期的に健康アドバイスや専門



家のメッセージを受け取ったり、企業が導入した健康に資する活動のインセンティブについて通知を受けたりします。また、企業は、プログラム導入後、従業員の幸福度、ストレス・レベル、プログラムの全体的な効果等のモニタリングが可能です。

同事業を担当するコヴァチュ副社長は、本事業は、フィットネス・ジムや休憩室等の職場環境の整備、社内コミュニケーションの改善とともに効果を挙げており、今では、社内の職員も非常に意欲的に業務に取り組んでいると説明していました。



<http://www.mikropis.si/>
<https://www.24alife.com/home>

●クルシュコ市議会、放射性廃棄物貯蔵施設におけるクロアチアからの廃棄物受入れを拒否【28日】

スロベニアとクロアチアの共同原子力発電所が位置するクルシュコ市の市議会は、現在建設中の放射性廃棄物貯蔵施設(於:同市近郊のヴルビナ(Vrbina))において、当初計画されていなかったクロアチアからの廃棄物を受入れることは受け入れられないとして、全会一致で同検討に対する反対姿勢を示した。スロベニア原子力安全局は、同貯蔵施設にかかるスロベニア側の経費負担の軽減策として提案されたものと説明していた。

軍事・治安情勢

●エリヤヴェツ国防相、NATO 国防相会合に出席【14日】

エリヤヴェツ国防相は、加盟国の国防費の増額目標につき議論が行われたNATO国防相会合への出席後、2020年及び2021年度のスロベニアの国防費は増額するであろうと述べた。同外相は「国防費増額に向けたステップは開始されており、自分は、2020年度及び2021年度の増額に強い期待を持っている。この増額は、スロベニア軍の近代化に我々が如何に真剣かを示すであろう」と述べた。NATOは2024年までに加盟国の国防費をGDPの2%に引き上げるという目標を定めているが、スロベニア政府は、1.5%への増額をプレッジしている。

●政府、ボクサー装輪装甲車48台の購入を取りやめ【21日】

政府は、共同武装協力機構(OCCAR)からの総額3億600万ユーロのボクサー装輪装甲車48台の購入を取りやめることを決定した。エリヤヴェツ国防大臣は、今回の中止の理由として、同調達計画は、2005年におけるスロベニアにおける軍備需要調査の結果を基にしたものであり、現状を的確に反映していないためとしている。同大臣は、「今回の判断は、8輪装甲車が不要であるということではなく、適切な需要分析を踏まえて軍備することを意味する」と述べ、NATOとの合意に基づいて大隊の軍備を進めるために、国防費を2019年はGDP比1.1%、2024までにはGDP比1.5%まで引き上げる予定と述べた。

社会・文化・スポーツ

●汚染牛肉がスロベニアへ輸入【1日～22日】

スロベニア食品安全管理局は、ケバブ用の食肉としてポーランドのある食肉処理場からドイツ経由で輸入された汚染牛肉15トンの入荷を発見。当初、食品安全管理局は、当該食肉が病気の牛が違法に屠殺された食肉処理場のものと発表したが、その後、そうではない旨確認されたものの、微生物学的テストの結果、サルモネラ菌の陽性判定がでたため、当局は肉を破棄するよう命じた。

22日、食品安全管理局は、ポーランドからスロベニアに入荷したさらに3トンのケバブ用牛肉が、サルモネラ菌およびリステリア菌に関して陽性反応がでた旨発表。肉は49ヶ所のケバブ店に届けられた。当該問題発覚後、スロベニア当局は、市場から当該食肉を撤去、店にも確実に廃棄するように徹底している。今回の当該食肉は、はじめに問題となった食肉加工場とはまた違う場所から供給されたものであった。

●古典的カルスト地形ユネスコへ推薦【4日】

環境・空間計画省は、1月下旬に、スロベニア南西部のNotranjska Regional ParkとPivka Interrupted Lakes Parkを中心とした25,461ヘクタールの古典

的カルスト地形(Classical Karst)のユネスコ世界遺産への登録に関し推薦書を提出した。同推薦書によれば、カルスト地形は、スロベニアで最も広大な地勢の一つであり、この地域には国土の27%(約6,400km²)を占める少なくとも約6,000の洞窟が存在し、また、古典的カルスト地形は、カルストの歴史とカルスト現象の研究にとって非常に重要な意味を持つ。なお、同地域のシュコツィアン洞窟は、30年前にユネスコの世界遺産に登録済み。

【冬季スポーツ大会におけるスロベニア人の活躍】

●スノーボード世界選手権(於:パークシティ,米国):男子パラレル大回転でティム・マストナク(Tim Mastnak, 28歳)が銀メダル【5日】

●W杯スキージャンプ(於:リュブノ,スロベニア):女子団体戦でスロベニアが銀メダル獲得。1位はドイツ,3位はオーストリア。【9日】

女子個人戦では日本の高梨沙羅選手が優勝(合計223.9ポイント)。前日の団体戦で好成績だったスロベニア人のニカ・クリジュナル選手(Nika Križnar)は215.9ポイントで4位。【10日】

●アルペンスキー世界選手権(於:オーレ,スウェーデン):

女子滑降で、怪我から復帰したイルカ・シュトヘツ選手(Ilka Štuhec, 28歳)が金メダルを獲得。【10日】
男子複合でシュテファン・ハダリン選手(Štefan Hadalin, 23歳)が銀メダルを獲得。【11日】

●スキージャンプW杯(於:オーベルストドルフ,ドイツ):女子ジャンプでウルシャ・ボガタイ選手(Urša Bogataj)が銅メダルを獲得【16日】

●スノーボードW杯(於:平昌,韓国):男子パラレル大回転でジャン・コシール(Žan Košir, 34歳)選手が金メダルを獲得。W杯での5つ目のメダル獲得。オリンピック平昌大会及びソチ大会でもメダルを獲得している数少ないスロベニア人選手の1人。【16日】

●フリースタイルスキーW杯(於:サニーバレー,ロシア):男子スキークロスでフィリップ・フリザー選手(Filip Flisar, 31歳)が2位。【23日】

●スノーボードW杯(於:張家口・密苑,中国):パラレル大回転でティム・マストナク選手(Tim Mastnak)が優勝。現在,W杯ランキングで2位。【23日】

●ノルディックスキー世界選手権(於:ゼーフェルト,オーストリア):クロスカントリー競技の女子チームスプリントクラシックで女子チーム(カーチャ・ヴィシュナル選手(Katja Višnar)とアナマリヤ・ラムピッチ選手(Anamarija Lampič))が、優勝したスウェーデンとわずか0.37秒差で銀メダルを獲得。【24日】



(photo 左: <https://www.instagram.com/ursabogataj/>)
(photo 右: <https://www.facebook.com/stefhadalin/>)

●映画制作への功績称えられる【12日】

リュブリャナ出身の著名な映画監督フランツェ・シュティグリツ(France Štiglic, 1919-1993)氏に因んで映画やテレビの演出に功績を残したものに贈られる「France Štiglic Award」に、スロベニアにおける映画の歴史を確固たるものにしたとして、これまでにショートフィルム26作品を手がけた Zdravko Barišič 氏が選ばれた。同氏は、ボスニアヘルツェゴビナ出身で1945年にスロベニアへ移住、アニメーター、映画台本作家、脚本家、プロデューサーとして活躍。1988年のベルリン国際映画祭では、同氏の作品「Oblast (Authority)」が、スロベニア映画として初めてショートフィルムに贈られるゴールデンベア賞を獲得、オスカー賞にもノミネートされた。1990年、リュブリャナ市にアニメ映画スタジオを設立。同氏が脚本を手掛けた映画「Troskok(ホップステップジャンプ)」は2000年のベルリン映画祭のパノラマプログラムで最優秀短編映画賞、ニューヨーク映画祭で最優秀映画賞を受賞。

●国際母語デーを祝う【21日】

2月21日の国際母語デーにあわせて、スロベニア国内でいくつかのイベントが開催された。国際母語デーは制定から20周年を迎え、言語学的、文化的多様性、そして多言語使用について理解を促進するもの。スロベニア語は、スロベニアの公用語で約200万人が使用しているほか、EU域内においても公用語として認識されている。21日夜、ツァンカリエフ・ドームにおいて、国際母語デー制定20周年及びプレクムリエ地方のスロベニアへの再統一100周年を記念し、プレクムリエ地方出身の作家やミュージシャンを紹介するイベントが開催された。プレクムリエ地方は、スロベニアの中でも最も特徴のある方言を話す地方として知られている。

ドベルゲン（スロベニア語で「こんにちは」）！前回に引き続き、僕が度々参加しているレースをもう1つ紹介します。今回は「Ratitovec（ラティトベツ）」という山で毎年6月上旬に行われているレースです。これまでに4回ほど参加しています。去年はマスターズ（35歳以上）のマウンテンランニング世界選手権として開催されたこともあり、例年以上に各国からの参加者が多く、大会前日のオープニングセレモニーでは様々なアトラクションとともに地域を挙げて迎えていただきました。



その中で印象的だったのは、近くに製鉄の町 Kropa（クロパ）があることから実際に釘作りをさせてもらえた事、そして、子供達による民族舞踊の披露です。彼らはとてもシャイですが、写真をお願いするとみるみるうちに集まってきて、良い記念写真が撮れました。



（左）釘作りにチャレンジ。はかどらず、隣のおじさんは苦笑。

（右）民族舞踊を披露してくれた子供達。こうした出会いは宝物です。



（左）レース終盤。歩きを織り交ぜながらもう一踏ん張り。

（右）フィニッシュまで数100m。この後ろには大パノラマが広がる。

セレモニーの翌日、いよいよレースです。山の麓にある Zelezniki（ジェレズニキ）の町をスタートし約11km。山頂まで1200mほどの一気上りです。途中に集落がいくつかあるので、そこが給水所を兼ねており、多くの方々に応援してもらえます。照りつける日差しの中、選手全員がひたすらに急勾配を耐えながら山頂を目指します。前回紹介した「Grintovec」もそうですが、スロベニアのレースは山頂フィニッシュのレースが多いです。その理由として、多くの山の山頂付近に立派な山小屋があるため、こうしたコースを設定しやすいということもあるような気がします。

そして、必死に登り、フィニッシュした時に振り返ると広がるパノラマ。この達成感は何物にも代え難いのです。こういった山のレースコースを設定するスロベニア人の美的感覚が、僕はとても好きです。僕は競技者として出場していますが、ファンランで出場する方もいますので、機会があれば、是非ともチャレンジしてみてください。レースのタフさとレース後の感動に加え、スロベニア式のホスピタリティを存分に味わえるはず。次回の紀行もお楽しみに！

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●国際交流基金海外巡回展「映像と物質」が始まります。

本展覧会では、1970年代の版画表現の主要な傾向を紹介しつつ、版画によって切り開かれた1970年代の現代美術の動向を紹介するものです。

○期間: 3月22日(金)18時～5月19日(日)

○場所: 国際グラフィックアートセンター (MGLC: Mednarodni grafični likovni center)

(住所: Pod turnom 3, 1000 Ljubljana)

MGLC ホームページ: <http://www.mglc-lj.si/>

※本展ではありませんが、国際グラフィックアートセンターへの通常の入館料がかかります。

●時友尚子氏による「日本の伝統的な染色技法」展示会及びワークショップを開催します。

◆展示会について

日本の伝統的な絞り、草木染めをメインに手がける時友氏の作品展示を行います。

○期間: 4月15日(月)～4月22日(月)

○場所: 市庁舎ホール(住所: Mestni trg 1, 1000 Ljubljana)

◆ワークショップについて

絞り染めのレクチャー・ワークショップを行います(要申し込み)

○4月15日(月)13:30～, 市庁舎ホールにて(先着25名)

○4月17日(水)17:00～, リュブリャナ大学 Faculty of Natural Sciences and Technology 内教室にて(先着30名)